

第6回中学生交流プログラム
【インドネシア】

平成26年10月5日～10月12日

使節団派遣実施報告書

平成26年11月26日



一般社団法人国際フレンドシップ協会

デンパサール（バリ島） サント・ヨセフ中学校訪問、交流、ホームステイ



校舎と校庭



日本文化紹介を終えて↑ 校長, 担当教員, 日本語通訳の生徒3人と



バイクで通学



活気あふれる教室



歌と踊りがすぐに始まる

ジャカルタ郊外、アルマージャン・イスラム総合中学校訪問、交流



垂れ幕の校門と折り鶴の歓迎



校庭で挨拶
交流会と
両国文化紹介



イスラム教犠牲祭りの焼きヤギ料理

中学校での日本文化紹介（全員がスターに）



10月5日、事前研修、10月6日ジャカルタ、台風で延着



10月7日 ジャカルタ市内見学



在インドネシア日本国大使館訪問

10月8日～11日デンパサール(バリ島)



バリの夕陽

バイクと車 (左側通行)

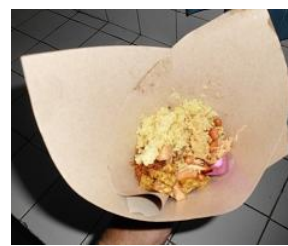
街角の風景、お供えと石地蔵



民家とバティック工場



学校の食堂、紙皿のナシ(ご飯)昼食とスナック



タナロット寺院見学後、ガルーダ航空で帰路に

成田空港で解団式



も く じ

口絵 (1)~(2)

まえがき

| | |
|--|-----------|
| I. 「第6回中学生交流プログラム」について | 2 |
| II. インドネシア訪問団日程 | 3 |
| III. 団員名簿 | 4 |
| IV. 活動の記録 | 5 |
| ・ 2014年10月5日 結団式、事前研修 | |
| ・ 2014年10月6日 成田空港出発、インドネシア到着 | |
| ・ 2014年10月7日 イスラム中学校訪問・交流、日本国大使館表敬訪問、市内見学 | |
| ・ 2014年10月8日 空路デンパサールへ移動、市内見学 | |
| ・ 2014年10月9日 デンパサール私立中学校訪問、交流・日本文化紹介 ホストファミリーと対面、ホームステイ開始 | |
| ・ 2014年10月10日 同上中学校での授業体験、交流・日本文化紹介 | |
| ・ 2014年10月11日 午前中、同上中学校での授業体験、ホストファミリーとの別れ、デンパサール市内見学後、帰国 | |
| ・ 2014年10月12日 成田空港到着、解団式 | |
| V. 感想文 | 9 |
| ・ 中学生交流プログラムに参加して | 植木 麻友 9 |
| ・ 夢に向かって | 齋藤 爽香 9 |
| ・ インドネシアに行って | 鈴木 彩音 10 |
| ・ 忘れることのできない7日間 | 塚本 日向 11 |
| ・ 第6回中学生交流プログラムに参加して | 平嶺 葵 13 |
| ・ 第6回中学生交流プログラムに参加して | 松山 泰斗 13 |
| ・ インドネシアに行って | 湯口 芽衣子 14 |

奥付

まえがき

「第6回中学生交流プログラム」（インドネシアへの派遣）は、公益財団法人かめのり財団の資金支援を得て、当一般社団法人国際フレンドシップ協会が企画・実施運営しております。2014年6月に派遣団員の募集を開始し、日本全国からの応募者から書類審査と面接審査を経て、8月に団員7名が決定しました。

本交流プログラムは海外研修と位置づけ、参加決定後に訪問先資料を配布、出発前日に集合し1泊2日の事前研修を行い、現地研修は6日間としました。今年は出発日に関東を台風が直撃、出発が6時間30分遅延しましたが、参加団員の頑張りもあり、当初の研修目的を十分に果たし実り多いものとなりました。本小冊子では、参加団員が研修の一環で分担した日にちごとの報告と全体の感想文を取りまとめ記録とします。

本記録により、参加団員には訪問先で出会ったすべてのインドネシアの人々のこと、特にジャカルタとデンパサールの中学校、そしてホストファミリーに改めて感謝し、出会いのときに感じ、自らが考え、そして誓ったことをもう一度、心によみがえらせてほしいと思います。

Web等を通じて本小冊子をご覧になられた皆様におかれては、インドネシア、そしてインドネシアの人々を身近に感じ、ご自身の回りでインドネシアとの接点を増やすきっかけになり、さらには国際交流に対する考えや思いがふくらみやすよう、スタッフ一同、心より願っております。

2014年11月

一般社団法人国際フレンドシップ協会

I. 第6回中学生交流プログラムについて

一般社団法人国際フレンドシップ協会（IFA）では、30年間、「ジュニア大使友情使節団」（小学5年生から20歳未満の学生）の海外派遣を訪問先公的機関の後援で行っており、その経験により、「中学生交流プログラム」の企画・実施運営を平成22年度から行っています。IFAはまた、23加盟国・地域から成る、アジア・太平洋国会議員連合（APPU; ASIAN-PACIFIC PARLIAMENTARIANS' UNION）中央事務局の運営を行っており、日本とアジア・太平洋地区の友好、交流の促進のために活動しています。

「中学生交流プログラム」は、公益財団法人かめのり財団（財団名は、創設者の康本健守〈やすもとけんもり〉の父・亀範〈かめのり〉に由来する）の活動資金をいただいています。同財団の活動目的は、日本とアジア・オセアニアの若い世代との交流を通じて、未来にわたり日本と各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、その懸け橋となる人材の育成を図ることにあります。

第1回中学生プログラムは、平成22年3月、中国に中学生7名、第2回（平成22年10月）に中学生8名を韓国に、第3回（平成23年10月）は中学生5名をマレーシアに派遣しました。第4回よりは招聘も開始し、平成24年10月に台湾に日本の中学生7名を派遣、翌月11月には台湾より中学生8名を招聘、第5回も同様に平成25年10月にベトナムに8名の日本の中学生を派遣し、翌11月にはベトナム中学生8名を日本研修に招きました。

今年度の第6回は、近年日本との友好協力関係が増しているインドネシアに、一般公募により選抜した日本の中学生を派遣するとともに、インドネシアの中学生を日本に招聘しました。インドネシアへの派遣では、同世代の少年少女や現地の人たちと様々な形で交流し、相互理解を図るとともに、外国語を学ぶことの意義や異なる文化の中でのコミュニケーションの重要性、インドネシアの歴史、社会、文化等に対する理解を深めてきました。また、インドネシア中学生招聘では、日本人、日本の社会に対する理解を深めてもらいます。

■関係機関

| | |
|----|-------------------|
| 実施 | 一般社団法人国際フレンドシップ協会 |
| 支援 | 公益財団法人かめのり財団 |
| 協力 | インドネシア日本語教師会 |

■実施期間

| | |
|------|---|
| <派遣> | 平成26年10月5日（日）前泊（事前研修） 平成26年10月6日（月）～12日（日）海外研修、全7泊8日 |
| <招聘> | 平成26年11月9日（日）～17日（月）全8泊9日 |

■団員

| | |
|------|--------------------------------|
| <派遣> | 7名、日本の中学生（全国公募、書類・面接審査を経て団員決定） |
| <招聘> | 7名、インドネシアの中学生（派遣団の受入中学校生徒） |

Ⅱ. インドネシア訪問日程

| | 月日 | 都市 | 時間 | | 内容 | 宿泊 |
|---|------------|------------------------------|---|------------------------------------|--|-----------------|
| 1 | 10/5 日 | 成田 | 13:30 | | 集合、結団式 事前研修（インドネシア事情、国際マナーとエチケット、渡航安全対策ほか、日本文化紹介練習等） | 成田・ホテル泊 |
| 2 | 10/6 月 | 成田 ジャカルタ | 12:00 18:30 00:30 | GA885 専用バス | 成田空港発（台風により遅延） 空港待機後、出発 空路ジャカルタへ。 ジャカルタ空港後、ホテルへ | ジャカルタ・ ホテル泊 |
| 3 | 10/7 火 | ジャカルタ 同近郊 | 午前 午後 | 専用バス | イスラム中学校訪問、交流・日本文化紹介 日本国大使館表敬訪問 市内見学（歴史、文化、産業） | ジャカルタ・ ホテル泊 |
| 4 | 10/8 水 | ジャカルタ デンパサール （バリ島） | 午前 09:40 12:40 午後 | 専用バス GA404 専用バス | ホテル発 ジャカルタ発 デンパサール着後、バリ島市内見学（歴史、文化、産業） | デンパサール・ ホテル泊 |
| 5 | 10/9 木 | デンパサール （バリ島） | 07:00 午前 午後 夕刻 | 専用バス | 市内中学校訪問・交流 （朝礼、授業見学・参加、日本文化紹介、生徒との交流他） 日本文化紹介・交流 ホストファミリー宅へ | ホームステイ泊 |
| 6 | 10/10 金 | デンパサール （バリ島） | 午前 午後 | | ホスト生徒と学校へ ホスト生徒と帰宅後、 ホストファミリーと過ごす | ホームステイ泊 |
| 7 | 10/11 土 | デンパサール （バリ島） ジャカルタ | 午前 昼 午後 20:00 21:05 22:00 23:30 | 専用バス GA421 GA884 | ホスト生徒と学校へ、授業体験 学校発 ホストファミリーとお別れ昼食会 デンパサール見学（歴史・文化） デンパサール空港発 ジャカルタ着 ジャカルタ空港発、空路成田へ | 機内泊 |
| 8 | 10/12 日 | 成田着 | 09:00 10:00 | | 成田空港着 空港にて解団式後、解散 | |

Ⅲ. 団員名簿

| NO | 氏名 | 男女 | 都道府県 | 学校名 | 学年 |
|----|---------------|----|------|-------------------------|----|
| 1 | 植木 麻友 | 女 | 香川県 | 高松市立山田中学校 | 1年 |
| 2 | 齋藤 爽香 | 女 | 宮城県 | 仙台二華中学校 | 3年 |
| 3 | 鈴木 彩音 | 女 | 東京都 | 都立三鷹中等教育学校 | 2年 |
| 4 | 塚本 日向 | 男 | 静岡県 | 加藤学園暁秀中学校 | 2年 |
| 5 | 平嶺 葵 | 女 | 和歌山県 | 県立桐蔭中学校 | 2年 |
| 6 | 松山 泰斗 | 男 | 北海道 | 函館ラ・サール学園中学校 | 3年 |
| 7 | 湯口 芽衣子 | 女 | 東京都 | カリタス女子中学高等学校 (神奈川県) | 3年 |
| 8 | 団長 山本 伸 | 男 | | 一般社団法人国際フレンドシップ 協会講師 | |
| 9 | 引率者 菊地 佐智子 | 女 | | 公益財団法人かめのり財団 職員 | |

IV. 活動の記録

◆2014年10月5日(日)【雨】 結団式、事前研修

今日は事前研修で初めて団員のみんなに会いました。7人の団員のうち1年は私1人だけで、すごく緊張していましたが、6人の先輩方はみんなとても優しく、明るく、また面白くて、1週間このメンバーでやっていくことがもっと楽しみになりました。

研修の内容には空港のことや規則、マナーなどたくさん覚える事があり少し大変だったけれど、団長やIFAの方々、かめのり財団のお話を聞き、「楽しみだな」、「頑張ろう」と思いました。

(植木 麻友)

◆2014年10月6日(月)【雨のち曇】 成田空港出発、インドネシア着

今日はいよいよ出発!…のはずが、台風により6時間半遅れのフライトとなりました。朝12時発の便が18時30分発になったため、予定を変更してホテルで研修の続きを行いました。昨日1日で団員同士うちとけることができ、歌の練習などもスムーズに進められたと思います。

夜のフライトになったため、空いた時間を睡眠に費やしました。その後、成田空港へ向かい、空港内を見学しました。フライトは18時半よりさらに遅れ、日本を飛び立ったのは19時過ぎでした。

機内ではインドネシア料理または和食の夕食、ハーゲンダッツアイスクリーム等を食べましたが、眠さからか起きられず、食べられなかった人もいました。

ジャカルタに到着したのは現地時間の12時過ぎです。さすがに団員の表情に疲れの色が見えました。そこからホテルへ行き、明日の予定を確認後、やっとベッドに入ることができました。睡眠時間の短さと明日からもかなりの過密日程が予想されると思いますが、異国の空気を楽しみつつ、乗り越えていきたいです。

(齋藤 爽香)

◆2014年10月7日(火)【晴れ】アルマージャン・イスラム教総合中学校訪問 日本国大使館表敬訪問

今日は、昨日ジャカルタに着くのが遅かったので、出発時間が1時間遅くなりました。ホテルの朝食をいただき、ガイドさんにあいさつをして、「アルマー

ジャン・イスラム教総合中学校」へ向かいました。行く途中の道は、テレビでしかみたことがなかった多くのバイク、車が走っていました。日本の会社もあり面白かったです。

中学校に着くと、たくさん生徒が迎えてくれました。みな、優しく話しかけてくれたので、すごく嬉しかったです。しかし、ペアになった生徒からいろいろな説明を受けても、意味がわからない単語や答えることができないことがたくさんありました。私は英語があまり得意ではないため、しっかりとコミュニケーションをとることができませんでしたが、アイコンタクトや身ぶり手ぶりでは思った以上にコミュニケーションをとることができました。そして、何よりとても楽しかったです。

その後は、少しスーパーマーケットを見てから、日本国大使館へ行きました。インドネシアのことが本当に好きで、自分の仕事に誇りをもっていることが伝わってきました。セキュリティもすごくしっかりしていて、驚きました。

明日からもしっかりとインドネシアの方々とのコミュニケーションをとっていきたいと思います。

(鈴木 彩音)

◆2014年10月8日(水)【晴れ暑い】ジャカルタ発デンパサール(バリ島)へ

今日はこのプログラムの中で一番楽しみにしていたバリ島に飛びたつ日でした。ジャカルタで過ごした2日間も楽しい日々ではありましたが、僕は今日のバリ島が楽しみで仕方ありませんでした。バリ島に到着したのは12時くらいで、まず最初にバティックという服を作っているところに連れて行ってもらいました。バティックの様子は全てろうで付けられていました。

他にも村のような家の集まり(民家)を見せてもらったりと、文化を学べました。最後にはクタビーチに行きました。朝のフライトでクタクタでしたが、そこで食べた夕食もおいしかったです。良い旅になりますようにと海に向かって願いました。

団員間での距離も少しは縮まった気がします。これからホームステイを含めての3日間を有意義に過ごしていきたいと思います。

最後に、私事ですが、毎日団長のヘアスタイルが気になって仕方がないので、いつそのこと刈り上げたらどうかなと私は思います。

(塚本 日向)

◆2014年10月9日(木)【晴れ】 サント・ヨセフ・デンパサール中学校訪問、授業見学と日本文化紹介

今日は、サント・ヨセフ・デンパサール中学校に行った。学校に着いてすぐ、たくさんの人が集まってきて、片言の日本語で話しかけてくれた。午前中は、中学校 2 年生の教室で授業に参加した。音楽では、インドネシアの歌を聞いたり、「ふるさと」を歌ったりした。インドネシアの中学校の授業はとてにぎやかだ。そのせいで、先生がおこっているのをたくさん見た。また、数学は日本より進んでいて驚いた。そして、先生が日本と違いとても若く、授業もパワフルだった。

午後からは、日本文化紹介をした。けん玉や書道は、生徒が見入っていて、日本文化の素晴らしさに気づけたと思う。踊る前は少し恥ずかしかった AKB48 の「恋するフォーチュンクッキー」も、踊ってみると、みんな口ずさんでくれて、よかったと思った。

そして、日本文化紹介が終わり、今日からホームステイがはじまった。正直、最初は緊張しているし、あまり言葉が通じなかったため、楽しくなかった。でも、ホストファミリーと一緒にご飯を食べたり、スーパーマーケットに行くうちに、コミュニケーションがとれるようになってきた。明日のホームステイでは、今日よりも話したいと思う。

(平嶺 葵)

◆2014 年 10 月 10 日 (金) 【晴れ】 サント・ヨセフ・デンパサール中学校
授業体験、日本文化紹介、ホームステイ

ホームステイ 2 日目。今日は放課後からホストや数名の団員とそのホストと一緒にショッピングモールなどに遊びに行きました。ショッピングモールにはとても緑のきれいな中庭があってとても長閑 (のどか) でした。

学校に来た時から思っていました、この学校の生徒は、みんな優しく、フレンドリーだと思います。今日も、道を歩くときは、バイクや車にぶつからないように僕たちを誘導してくれました。他にも、僕に妹がいることを知ると、これをお土産にしてはどうかと言って、一緒にネックレスを選んでくれました。

出会ったインドネシアの方達は、みんな常に笑顔で、言葉という大きな壁があるのにも関わらず、色々なことを積極的に伝えようとしてくれます。

インドネシアにはあと 1 日しか滞在できないけれど、もっとインドネシアの方達と仲良くなりたいと思います。

(松山 泰斗)

◆2014 年 10 月 11 日 (土) 【晴れ】 サント・ヨセフ・デンパサール中学校
授業体験、ホストファミリーとの別れ

今日は、学校に行く最終日でした。私はバディーが体育のクラスだったので朝はやく、5時に起きて6時に車に乗りました。体育は学校の体育館ではなく公園のようなところに行き、走ったり歩いたりバトミントンをしたりしました。その後学校に行き朝食を食べ授業を受けました。

授業が終わった後みんなでお別れ昼食会をしました。ごはんは手で食べます。インドネシアの人たちは手で食べるのは簡単だと言っていましたでしたが私たちにとっては少し難しかったです。ごはんの後はみんな写真を取って別れました。とてもよくしてもらったので別れるのが本当に悲しかったです。11月に東京で会うのが楽しみです。

その後、タナロット寺院に行き観光をして夕食を食べました。インドネシアの料理はとてもおいしかったのですが辛かったです。そしてバスに乗り空港に行き日本に帰りました。今回の研修はとてもハードでしたがとても楽しかったです。また、大人になったらこのメンバーでインドネシアに行きたいです。

(湯口 芽衣子)

◆2014年10月12日(日) ホストファミリーとの別れ、帰国、解団式

解団式が終わり、団員とお別れ。とても悲しいです。この悲しみは昨日もホストファミリーとの別れで経験しました。これだけの悲しみを覚えたのは初めてだと思います。別れが悲しいということは、それだけこのプログラムが楽しくて内容の濃いものであったということだと思います。出発前は不安も大きくて、こんなに団員やインドネシアの方と仲良くなることができると思っていませんでした。

解団式でかめのり財団の西田さんがおしゃっていたように、このプログラムは今日が終わりではありません。これから、この経験を家族や友人にたくさん話していきたいです。さらに、今回、知り合うことのできた団員、ホストファミリー、学校の友達などとは頻繁に会うことは難しいかもしれませんが、手紙やSNSなどで未長く交流を続けていきたいと思っています。

(松山 泰斗)

V. 感想文

中学生交流プログラムに参加して

香川県・高松市立山田中学校 1年
植木 麻友

今回のプログラムに参加し、文化交流や授業参加、ホームステイ、バイクでの登校など日本ではできない貴重な体験をたくさんすることができました。中学校訪問では、学校中の大歓迎に驚きましたが、みなさんがとてもフレンドリーで積極的に話しかけてくれたので、すぐに友達になれました。

また、ホームステイ先では、日本との生活の違いにとまどうこともありましたが、ホストファミリーの方はとてもやさしく、私のたどたどしい英語を一生懸命聞いてくださり、うれしかったです。団員のみなさんともすぐに友達になれ、本当に楽しく、あっという間の8日間でした。

この経験は大切な思い出であり、将来の夢への大きな一歩になりました。最後に、私の体調が悪くなった時、山本先生、団員のみなさん本当にありがとうございました。テリマカシ！！

夢に向かって

宮城県・仙台二華中学校 3年
齋藤 爽香

一週間。たったそれだけの短い時間。それでも、あのインドネシアでの日々は私にとって本当にかげがえのない時間になりました。

最初、正直私は、期待と不安が入り混じった気持ちでいました。しっかりコミュニケーションがとれるだろうか。現地で仲良くなれるだろうか。そんな思いが渦巻いていました。しかし、訪問先では現地の方が温かく迎えてくださったので、積極的に会話をしているうちにそんな不安は吹き飛んでいました。

今回、様々なプログラムの中で私が学んだことはコミュニケーション能力と絆の大切さ、世界を知ることの重要さです。そしてそれらは自分自身の成長にもつながったと思います。

特に、今回の訪問ではホームステイの間など、英語を使う場面が多くありました。英語での会話は混乱してしまうこともあり、上手く言いたいことが伝わ

らなかったり、対応しきれない部分もあり、自分の語学力の低さを痛感させられました。さらに、現地の中学校でほとんどの生徒がとても流暢に英語を話していたことは、大きな刺激となりました。

また、訪問先ではたくさんの人と話しましたが、私が悔しく感じたのは被災地の認知度の低さです。「宮城」は分らないだろうと思いましたが、彼らが「東北」も知らなかったことはある意味衝撃でした。このままでは、いつか震災そのものまで忘れられてしまう気がしました。しかし、私自身もインドネシアでは習慣や宗教の違いなど初めて知るものも多く、驚きの連続でした。世界について知ること、その重要さを実感したのです。

そして、今回の研修で私は日本にもインドネシアにも素晴らしい友人を得ることができました。インドネシアではお互いの文化を認め合うことが国境を越えた絆につながったのだと思います。また、日本国内の仲間も、これからずっと大切にしていきたいです。

この中学生交流プログラムを通して、私はたくさんのことを学びました。また同時に様々な刺激を受けました。学んだことや、できたつながりを大切に、さらに自分自身が成長できるよう、より多くのことに挑戦していきたいと思っています。

最後になりましたが、プログラムに尽力してくださった皆様、ガイドさん、中学校で助けてくれた現地の生徒の皆さん、そしてホストファミリー、全ての方々に感謝します。本当にありがとうございました。

私はこのかけがえのない一週間で学んだことを決して忘れず、夢に向かってこれからも努力し続けます。世界で働く、そんな将来を実現させるために。

インドネシアに行って

東京都・都立三鷹中等教育学校 2年
鈴木 彩音

私はこのプログラムでインドネシアに行ったのが、初めての海外となりました。そのため日本を飛び立つまでは緊張と心配で胸がいっぱいでしたが、帰ってきたときには、またインドネシアや他の国にも行きたいと思えるようになっていました。初外国のインドネシアで学べたことは三つあります。

一つ目は学校訪問やホームステイを通してインドネシアの文化を自分の目で見て肌で感じることができたことです。まずインドネシアは国の中でイスラム教、ヒンドゥー教、キリスト教といくつかの宗教に分かれているため、それぞ

れの場所で文化が違うことが日本にはないことだと思いました。また、朝、バイクで学校に行くこと、授業がにぎやかなこと、食べ物が違うこと、手で食事をすることなど、何もかも日本とは違いました。

しかし、文化が違っていても人間は皆仲間だということも学ぶことができました。それが二つ目です。私はあまり英語が話せないこともあって、インドネシアの人達と通じ合えるのか、受け入れてもらえるのかとても心配していました。しかし、アルマージャン中学でもサントヨセフ中学校でも、先生から生徒までみんなが私たちのことを大歓迎してくださいました。友達もたくさんできました。また、ホームステイ先の家族も、私のことを家族のように受け入れてくださいました。インドネシアで出会った人みんなはフレンドリーで、親切で、どこか日本人に似ていて、途中から英語でコミュニケーションをとっていることが不思議に思えたほどでした。

三つ目は、今私が暮らしている環境に感謝しなければいけないということです。インドネシアの水は濁っていて、体を洗うのもちゅうちょするほどでした。またホームステイ先のお風呂は水風呂でした。日本だったら水道から出てくる水は飲むことができ、簡単にお湯も出すことができます。またインドネシアは、日本のように治安がよくありませんでした。海で食事をしているときには、音楽を勝手にひき始めたグループが私たちにチップを要求してきました。また、しっかりと貴重品を身につけていないと取られてしまう危険があることにも驚きました。私たちが当たり前だと思って生活している環境は全く当たり前ではなかったことに気がつき、日本の快適さを改めて実感することができました。

今回インドネシアに行って、体全体で感じたこと、学んだことはこれからもずっと心に残っていくと思います。また、現地の人との出会いはもちろんのこと、団員との出会いも最高の出会いでした。この学びと出会いを大切に、これから頑張っていきたいと思います。

今回のプログラムを実施して下さったみなさん、インドネシアで私たちに関わって下さった現地のみなさん、そして私たちにたくさんのことを教えて下さった山本団長、本当にありがとうございました。

忘れることのできない7日間

静岡県・加藤学園暁秀中学校 2年
塚本 日向

7日間という充実したインドネシア研修が終わり、たくさんの学びを得ました。私はこの出来事が風化してしまわないよう、インドネシアで起こったことをあ

りのままに記します。

初日の事前研修の時点で団員と和むことができ、いい旅が迎えられそうだなと思った翌日の朝のことでした。台風によりフライトが6時間も遅れました。しかし、今思うとこの台風は団員の結束力を高める時間を与えてくれたのでした。結局その日はジャカルタに着いてから2時間ほどしか眠れませんでした。

疲れがほとんど取れないまま翌日はイスラム教の中学校との交流、日本国大使館での表敬訪問、そして市内観光というハードなスケジュールでした。

最初の中学校はとにかくエネルギーがすごかったです。歓迎が熱く、校内も熱い、日本ではあまり見ない学校でした。そして、シャイであったはずの自分もいつの間にか周りの人たちと仲良くなっていました。別れの時もみんなからのサヨナラが熱かったです。

続いて行ったのが日本国大使館でした。インドネシアのことを深く知ることができ、同時に外交官の仕事にも興味をもちました。そしてその日最後が市内見学。モスクや町のモニュメントなど、ジャカルタの文化を目で確かめ、肌で感じることができました。ハードな一日だったので、その日はぐっすりと眠れました。

ハードな日の翌日はバリ島市内見学でした。バリの民家見学、バティック工房の見学など、バリでしか見ることのできないものを見てきました。私はバリの民家を見た時に一番驚きました。民家というよりは家の集合体の様になっていて、中では小さなお寺、ハリネズミ、鶏、豚など日本の民家では見たことのないもの、生き物がたくさんいました。夜はクタビーチでの食事。とても満喫した一日を過ごすことができました。

そしてその翌日からは楽しみにしていたホームステイでした。早朝に中学校に行き、授業に参加し、日本の文化紹介をして、やっとホストファミリーに会うことができました。その中学校はジャカルタの中学校の数倍もアクティブな生徒が多い学校で、正直疲れました。そんな疲れもホームステイで一気に吹っ飛びました。

私がホームステイした先は5人家族で、トイレに紙はありませんでした。紙の代わりに小さいシャワーのようなものがついていました。日本では感じられない異文化体験ができました。

ホームステイは二日で終わり、タナロット寺院も見学し、ラストディナーを食べ終わり、ついに日本に帰る時が来ました。バリからジャカルタに2時間そしてジャカルタから日本まで8時間かかりました。しかし、事件はジャカルタスカルノハッタ国際空港で起こりました。団員の一人が体調を悪くしてしまったのです。ここでは団のチームワーク、そして空港の職員さんの手助けもあり何とか飛行機に乗ることができました。

無事帰国して解団式をすぐさま迎えました。怒涛のような日々も今日で終わりと思うと、とても寂しい気持ちになりました。しかしこれが始まりだと西田事務局長は言ってくれました。その言葉を胸に留め、今回体験できたことを今後の自分の視野の広さに活かしていきます。

最後に、山本団長をはじめ、私たちにチャンスを与えてくれた皆さんに感謝の意を示したいと思います。本当にありがとうございました！

第6回中学生交流プログラムに参加して

和歌山県・県立桐蔭中学校 2年
平嶺 葵

とにかく楽しいプログラムでした。また、みんなを上手くまとめる団長、面白いインドネシアの友達、そして最高の仲間に出会え、かけがえのない思い出になりました。

一日目の研修の時、緊張して上手く話せなかった友達が、最高の仲間になるのに時間はかからなかったです。今回の旅はとてもハプニングが多く、それが結束力を高めたのだと思います。一人の団員が体調をくずした時、私達はひとりでその子の荷物を持ち、そしてその子を助けようと思いました。その時、誰かがこう言いました。

「私達、本当にチームワークいいよね」

たった一週間しかいなかった仲間なのに、昔からの友達のように一緒にいて楽。そんな最高の仲間に出会えたことを私は誇りに思います。また、一人関西弁で話し続けた私が、7人の仲間に入れてもらえ、そして素晴らしい思い出を作れたことに感謝します。

みんな、ほんまにありがとう。

第6回中学生交流プログラムに参加して

北海道・函館ラ・サール学園中学校 3年
松山 泰斗

アジアの国のことを学ぶことは、とても大切なことだと思い参加したこのプ

プログラムで僕はたくさんのことを学びました。一週間も学校を休むことを心配してくれた友達もいましたが、机の上では決して学ぶことのできない貴重な体験の日々でした。

英語を使う場面がたくさんあり、ホストファミリーや訪問先の学校の生徒とるようにコミュニケーションを取ることができないこともありました。そんな僕を助けてくれたものが二つあります。

一つ目は笑顔です。成田での事前学習でもコミュニケーションを取る時には笑顔が大切である、ということをお教へいただきました。相手に伝えたいことを十分に伝えられなくても、あきらめずに笑顔でいれば、相手もフォローをしてくれて、伝えることができるということをお学びました。

二つ目は日本のアニメです。インドネシアの多くの方は、日本のアニメが好きです。書店の漫画コーナーには日本のアニメが翻訳されてたくさん売られていました。ホストファミリーも僕に日本のアニメを見せてくれました。僕はあまりアニメに詳しい訳ではありませんが、アニメを話題にするだけで会話が弾むことが何度もありました。

インドネシアには日本の文化を理解し、交流しようと考えている方が多くいました。それに比べて僕達日本人はインドネシアのことを知らないのではないかと思いました。これからもインドネシアをはじめ、アジアの国々のことを知る努力を続けていきたいです。更に、せっかく覚えたインドネシア語を忘れないようにし、このプログラムで得られた仲間を一生大切にしていきたいです。

最後になりましたが、プログラムを企画、運営して下さった皆さんをはじめ、引率して下さった山本団長、菊地先生、そして、団員の皆さんに感謝します。本当にありがとうございました。

インドネシアに行って

神奈川県・カリタス女子中学高等学校 3年
湯口 芽衣子

ジャカルタのイスラム教の中学校の訪問では私たちをととても歓迎して下さり嬉しかったです。また、ヤギの肉を昼食に出して下さりました。はじめてヤギの肉を食べクセがあるなと感じました。イスラム教ではヤギの肉はたいへんなごちそうだと聞き、歓迎をたいへん嬉しく感じました。

その後、私はバリ島に行きました。バリはとてもキレイな海がたくさんありました。

二日目以降は学校に行き、異なる文化をたくさん体験することができました。たとえば日本の授業は黒板を写して静かに聞くのが基本ですが、バリではみんなたくさん発言してとてもにぎやかでした。楽しかったです。

私はこのプログラムに関わったすべての人たちに感謝をし、これをきっかけに日本のことをよく学び、外国に目を向けていきたいと思います。ありがとうございました。

本プログラムに情報提供ならびにご協力くださった皆様に
心より感謝申し上げます。

(順不同、敬称省略)

インドネシア

インドネシア日本語教師会 Drs. Zeny Kurniawan

在インドネシア日本国大使館

参事官・広報部長 竹山健一

専門調査員 久保裕一

サントヨセフ中学校 校長 Dra Ni Luh Surarti

同日本語教師 Ni Luh Putu Agustini

アルマージャン・イスラム教総合中学校

校長 Arya

同コーディネーター Anisa Muslichia

同教員 Deni and Aile

現地ガイド マスングディ (ジャカルタ)、パギ (バリ島)

日本

公益財団法人かめのり財団 理事・事務局長 西田浩子

公益財団法人かめのり財団 菊地佐智子

株式会社 HIS アカウント・マネージャー 石山 剛

株式会社 HIS 官公庁デスク 茅原 稔枝

成田ビューホテル 宿泊支配人 斉藤浩文

成田ビューホテル 営業課 松本 亮

第6回中学生交流プログラム報告書

平成26年11月26日

企画・実施運営 一般社団法人国際フレンドシップ協会

〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12

麻布台ロイヤルプラザ 502号

実施責任者 及川 伊佐子

電話 03(3582)3021 FAX 03(3582)3010

Web: <http://www.ifa-japan.org>